

令和7年度 高山市誰にもやさしいまちづくり推進会議 会議録（要旨）

日 時：令和8年3月26日（木） 10時00分～12時00分

場 所：高山市役所4階 特別会議室

出席者：高山市誰にもやさしいまちづくり推進会議委員 11名

※別紙名簿のとおり

総合政策部部長、総合政策課課長、総合政策課係長、秘書交流課長、
福祉課課長、高年介護課課長、観光課課長、都市計画課係長、
総合政策課担当

会議内容（次第）

1. 開会

2. 市あいさつ（総合政策部部長）

3. 西山会長あいさつ

4. 議事（議長：西山会長）

(1) 誰にもやさしいまちづくりの取り組みについて

①観光施設のバリアフリーモニターツアーについて

②公共交通の見直しについて（高山市地域公共交通計画）

資料に基づき事務局が報告

①観光施設のバリアフリーモニターツアーについて

野崎委員

- ・今回のモニターツアーでの介助者は家族あるいは専門のガイドヘルパーなのか。
- ・重度障がい者や車イスの子とその親御さんの会があり、様々なところに毎年行かれている。昨年高山市のホテルに宿泊されたそうだが、高山市のホテルがバリアフリーに配慮されており嬉しかったということを聞いている。今後は今回の知的障がいだけではなく身体障がいや発達障がいのある方などにも広げて取り組んでいくのか、今後の方向性を教えてほしい。

観光課長

- ・モニターツアーの介助者は基本的には家族。
- ・令和6年度に視覚障がいと下肢障がいのある方を対象としたモニターツアーを実施した。精神障がいの方を対象としたツアーも検討したが、様々な関係者との相談の中で、ツアーの実施は困難であるとわかったため、モニターツアーは一旦終えたい。今後については、令和8年度に今回のモニターツアーの結果を踏まえた観光関連事業者向けの冊子を作成し共有する。障がいをお持ちの方はもちろん、外国の方なども含めた多様な視点でのバリアフリー観光の対応について今後も引き続き取り組んでいく。

議長（西山会長）

- ・事業者の声を集めているとのことだったが、接遇の方法について紹介できる意見があれば教えてほしい。

観光課長

- ・ソフト面については、従業員の声掛けの仕方や笑顔などに対して、実際に訪れた障がいをお持ちの方から安心したという意見があった。従業員のみなさんが普段から行われている一つ一つの対応が喜ばれているということを事業者へ情報共有した。

伊藤委員

- ・公衆トイレのオストメイトについて管理方法が課題だと思っている。オストメイトの方がたくさんの物を置くための広い台があるが、そこにトイレトペーパーが積んであることがあったり、ベッドの下にゴミ箱があって動きにくいようなことがあった。ハードを整備しても管理者が使い方をわかっていないのではないかと思う事例があったため、そういうところも情報共有してほしい。

観光課長

- ・令和6年度に実施した肢体に障害のある方のツアーでは、ホテルのロビーや部屋など場面ごとに様々な意見をいただいた。せっかくのしつらえがあってもその目的がわからないことで逆に不便になってしまうこともあると思うため、そういったことも配慮しながら共有したい。

長野委員

- ・当社では車いすの方から事前に電話をいただければスタッフを派遣し乗降の対応をしている。電動車いすの場合は運転士が腰を痛めることがあったため、介助の方にも手伝っていただいている。都市部ではステップのないバスを利用するケースが多

いが、高山の場合スーツケースなど大きい荷物をお持ちの観光の方が多く、安全性の面からも荷物を収納するトランクを備えたバスとなる。その場合乗車の際に段差のあるバスとなる。観光の方への対応もしながら最前の方を探っていきたい。

井ノ下委員

- ・バリアフリー対応施設であることを発信していないところもあると思う。発信していくことが大事なので、旅館ホテル協同組合にも呼びかけをしたい。オストメイトについては、作って終わりとしないう利用者の方の目線を意識していかなければならない。

議長（西山会長）

- ・ツアー結果を冊子にする方法以外にも、動画にしたり、講座などで共有する場を作ることだろうか。

観光課長

- ・令和6年度の事業結果を受けてセミナーを開催した。令和8年度の事業として冊子を作成するが、ご提案の方法も含めて広く届く方法について考えたい。

議長（西山会長）

- ・誰にもやさしいまちづくり条例の認定をしたところを回って確認することはしているか。

観光課長

- ・今回の観光施設バリアフリーモニターツアーでは対応していない。

総合政策課係長

- ・認定された事業者が基準を満たしているか確認する作業をすすめているところ。

嶋田委員

- ・身体障害者福祉協会で様々な行事をするが、例えば運動会には車いす利用者や視覚障がいの方がみえるが私よりも元気な方もみえる。身体障害者福祉協会に加入されていない方もみえると思うし、その中にはかなり重度の方もみえると思う。誰もが楽に生きられるようなシステムがこのような会議などをおして議論され作られていくことはありがたいことだと思う。

議長（西山会長）

- ・イベントや会合などに出て来ない方、発言されない方はたくさんいると思う。いろ

んな方の声をうまく取り入れられるようにしてもらえたらと思う。

②公共交通の見直しについて（高山市地域公共交通計画）

糸田委員

- ・知り合いの方から、乗ろうと思ったバスに外国人技能実習生の子がぎゅうぎゅうに乗っていたためバスが行ってしまったと言っていた。高山の外国人技能実習生の移動手段はバスか自転車か徒歩である。その知り合いの方は高校生などが乗ろうと思ったときに乗れないと困るのではないかと言っていた。そういうことは起こっているのか。

長野委員

- ・バスが通り過ぎてしまったという問い合わせはある。そういった場合、代わりの者が送迎に向かったり、バス停の通過時間がわかるGPSやドライブレコーダーを確認し状況を説明したりお詫びをするなどの対応をしている。運転手の見落としもあるし、バス停から離れたところで待っていたり、バス停の小屋の裏側にいてわからなかったこともある。外国人の方のマナーは良い。ミスが無いように再発防止に取り組んでいきたい。

糸田委員

- ・見過ごされたということではなく、外国人技能実習生がたくさんバスを利用しているということを知り合いの方は言いたかった。外国人の働く子たちの交通手段としてバスがとても利用されているということがみえているのかを伺いたい。

都市計画課係長

- ・承知している。特に支所地域において農業や畜産業に従事している外国人の方が定期的に買い物や様々な手続きをするためにバスを利用していると聞いている。のらマイカーの南線や東線などでも年に数回満車となることを把握している。限られた車両と運転手が限られている中で、増便の対応はすぐには困難である。

糸田委員

- ・知り合いの方は普段からバスを利用されている方で、外国人の方の乗車は本当に増えたし日常的な風景になってきたと言っていた。わたしも知り合いの外国人の方をその方が暮らしているところからだいぶ離れたところで見かけることがあったり、イベントなどにもバスで来てくれる。彼らの基本的な移動手段はバスであると改めて思う。

都市計画課係長

- ・「G T F S（バスの停留所や時刻表、ルート情報）」のオープンデータ化を一昨年までに整備し、Googleマップなどの地図アプリから公共交通を使ったルート検索ができるようになった。Googleマップは外国語にも対応しており、日本語の時刻表を見なくても、自国の言葉で検索することができる。ここ1、2年でバス利用が増えた要因の一つではないかと思っている。

長野委員

- ・満車で乗れないというケースは、のらマイカーではレアなケースだと思うが、新穂高線では雪の時期やグリーンシーズンに上高地などに行かれる方で満車となることが多い。その時期はバスを増便し、その内1台は途中で乗車される外国人実習生の方用に空席を作って運行するなどの対応をしている。予想を超える乗車人数のときもあり、途中乗車の方用の席を空けることができないこともあるかもしれないが、補助席なども活用しながら対応している。

議長（西山会長）

- ・観光と生活の両方が存在するこの土地ならではの課題だと思う。

野崎委員

- ・のりものフェスタに多くの幼児や小学生が参加している。こういった取り組みはありがたい。人材不足への種まきとして、小中学生を対象としたバスの1日運転士などあるかと思うが、学校のキャリア教育の中などで運輸業全般に対して前向きになるような取り組みはしているか。

長野委員

- ・小中学生を対象としたバスの乗り方教室を十数年前から実施している。多い年で年間1,800人ほどの学生さんに参加いただいた。この教室では、乗り方をはじめ、内輪差の死角やシートベルトの重要性を知ってもらったり、非常口からの降り方などを体験いただく。学校からの希望により実施している。
- ・のりものフェスタにはバスを持って行き運転席に座ってもらう。また、小学生を対象とした仕事体験イベントにも参加している。
- ・運転士の確保については、3年前から高卒の運転士を1人ずつ採用しており、昨年採用した女性が初の19歳の女性運転士として令和8年4月に誕生する予定。また家庭を持つ女性の運転士については、その方の生活に合った女性運転士専用のダイヤを2年前に作るなど、その人それぞれに合ったダイヤを作る試みをしている。今年採用した運転士は4人だが、内3人は大卒で県外出身の方。それらの方々に対し

ては家賃補助等の手当類を手厚くしている。ここ数年で採用した運転士は県外の方が多く、それらの方に飛騨での就職を選んだ理由を聞くと、「観光地を運転する運転士になりたい」とのことだったため、募集の際にはその点を全面に出している。中途採用も行っており、離職を止める動きにも力を入れている。

- ・他のバス会社では運転士の不足によりダイヤを減らしてるが、当社の幹線バスのダイヤは十数年減らしていない。観光路線や高速バスの営業益を幹線バスの赤字部分にまわして維持している。荘川、朝日、奥飛騨、神岡の子でも自宅から学校まで通えるような運行計画を維持しているところ。

野崎委員

- ・医療や介護の分野でも人材不足により、ミャンマーやインドネシアなどの外国の方を採用している。その子たちの移動手段としても濃飛バスさんに期待されていることは多いと思う。

議長（西山会長）

- ・法律の改正により19歳でも運転士になれるようになった。各地で19歳の運転士が誕生している話は聞くが女性は珍しいと思う。外国人の活用はされているか。

長野委員

- ・外国人ドライバーは3年前から誕生しており、他のバス会社では採用している。拠点間輸送のような単純輸送なら外国の方でもできるかもしれない。高山の場合、バス停の名前を覚えてもらえるか、方言がある高齢者との会話ができるか、雪道など課題はたくさんあり、外国人ドライバーの誕生は10年くらい先になるかもしれない。キルギスで日本語学校を作り日本にバスの運転士を派遣しようという試みが今年からはじまった。

丸山委員

- ・のらマイカーの運賃は100円で当初から変わらない。100円で運営していくことは大変だと思うが、値上げをすると100円というお手軽さが無くなる。料金改定により利用者が減るのではないかという心配がある。

都市計画課係長

- ・料金改定については、市民の方の負担は増やさずに、観光でお越しになる方からある程度負担していただくような形ができないかと考えている。2重料金は法律上できないため、割引での対応などをこれから検討していきたい。

議長（西山会長）

- ・京都で現在議論されている観光地と生活とを分けることについては検討されているか。

都市計画課係長

- ・京都市が運輸局と調整されている2重料金については、注視しているところ。それが可能であれば2重料金についても検討をしたい。多くの市税を投入しているので、観光の方からある程度負担をいただきたいと考えている。

渡辺委員

- ・様々な障がいをお持ちの方や困っている方、外国の方も含めて様々な角度から規模も深さも大きくなっており、10年前と比べて感覚が違ってきていると思う。個々の問題点をそれぞれ解決していくことは必要だが限界もあると思っており、すべての障がいや困っている方を網羅することはできないと思っている。障がいをお持ちの方も社会の受け入れを探ることは難しいところがある。そのため、バリアフリーのコーディネーターのような方がいると良いのではないかな。その方にあったケアや施設、支援など、私たちの間で情報を専門的にまとめてくれて、私たちにもアドバイスをしながら障がい者にも寄り添う立場の方がいると良いのではないかな。わかってくれる、考えてくれる安心がある、そういった行政、観光や都市の器があると良いのではないかなと思う。

総合政策部長

- ・当市は平成17年に条例を制定し誰にも優しいまちづくりに取り組んできた。全国的にも先駆的な取組みで、こういった推進会議は他の自治体には無いように思う。今ご提案いただいたように、エキスパートの方にお問い合わせすることもできるかと思うが、現状はこの会議がそのような機能を持っていると考えている。様々な分野の有識者の方々に参加いただき、様々なご意見をいただきながら議論し取り組みを進めていく会議である。今ご提案いただいた内容も含め、バリアフリーが進む方法をこの場でみなさんと議論させていただきたいと思う。

議長（西山会長）

- ・人材の問題はあると思うが、相談できる人やとりまとめをができる人について各分野でご検討いただければと思う。

山田委員

- ・障がい者のモニターツアーについて、サービス事業者にいかにも負担をかけずに実現させるかを考えることが必要だと思う。サービスは売り物であるためそこを無理にやらせるのは違うと思う。冊子には、ツアーの中で「こんなことで良いの？」とい

う気付きがあったならばそういった気付きや、サービス提供者さんの意識を変えていくような提案を入れてもらおうと面白いと思う。

- ・公共交通については、自動車を維持していく場合と、公共交通を利用する場合との費用などの比較があると良いと思う。

議長（西山会長）

- ・広報で工夫をされていることはあるか。

都市計画課係長

- ・おでかけパスポートという1年間6,000円で乗り放題の制度を作っているが届いていないかもしれない。今後の見直しの中で、幹線バスの割引制度である悠々手形と統合し、より分かりやすく利用しやすくなるような制度を考えている。免許証をお持ちの方が公共交通に移行しやすいように、また、そういった方に届く方法を考えたい。

窪田委員

- ・最近、高校生の自転車利用者が少なくなっているような気がする。わたしの高校時代はバイクでの通学が可能だった。現状を教えてください。

都市計画課係長

- ・ヤングパスポートという高校生がのらマイカーに無料で乗車できる制度がある。のらマイカーを利用して通学する学生は増えている。雪や雨のときに利用が多い。バイク通学は高校では原則認めていない。通学の補助制度はあるが申請は無い。

議長（西山会長）

- ・たかね号の取組みについて、こういったモデルを今後増やしていくあるいは、重点的に支援していくといった、今後の政策的な目標があれば教えてください。

都市計画課係長

- ・たかね号については、制度上交通空白地有償運送をしているが、それ以外については濃飛バスさんのご協力もあり現在は維持ができており広める予定は今のところない。しかしながら10年、20年後を見据えた上で、支所地域について交通空白地を取り入れていく必要がある。高根地域については、次の段階として住民同士の支え合いという段階に入っていくと考えている。

議長（西山会長）

- ・燃料代の高騰や車両維持が大変であること、また支え合いもなかなか難しいという

ことを各地で聞いている。中東情勢による燃料高騰などの地政学的なリスクも考えていかなければならない。

総合政策部長

- ・令和８年度からの取り組みとして、地域支援員を支所地域に配置する。最も高齢化と人口減少が進んでいる朝日・高根地域に入り込んでもらって、何に困っているのかをまず探りに行こうと考えている。既存の福祉、介護、医療サービスにつないで助かる方、その基準に達していないが困っている方、タクシーバスの乗り方が分からず困っている方、いろんな方がいると思うので、そこへ入り込んで支援をしたり、穴があればそれを埋める制度を作れないか、探ることをしていきたい。社会福祉協議会、まちづくり協議会、観光協会など様々な方のご意見を伺いながら進めていきたい。

議長（西山会長）

- ・さきほどご意見のあったコーディネーターのような役割を担える可能性もあるのでは。支援員の在り方も変わっていくかもしれないが、横展開なども期待できる。また情報共有してほしい。

都市計画課係長

- ・令和７年４月１日に中橋周辺での観光バスの一方通行を試行的に実施した。観光客の方が危ないという話に加えて、地域の方が自動車で買い物に行きにくい、車いすの方やベビーカーの方が中橋を渡れないといった問題への対応として実施したものの。令和７年１２月から本格運用していることを共有させてほしい。

５．その他

意見なし

６．閉会

高山市誰にもやさしいまちづくり推進会議委員名簿

(敬称略)

任期 令和7年3月1日～令和9年2月28日

区分		分野	団体名(推薦依頼先)	役職	委員氏名	備考	R7 会議
有識者等	1	有識者 (大学)	東京都市大学	教授	西山 敏樹	継続	○
	2	有識者 (多文化共生)	岐阜県多文化共生推進員		糸田 恵子	継続	○
	3	教育	高山市教育委員会	教育委員	野崎 加世子	継続	○
市民代表	4	地域福祉	(福)高山市社会福祉協議会	会長	窪田 哲	継続	○
	5	身体障がい	高山身体障害者福祉協会	副会長	嶋田 稔	新規	○
	6	高齢	高山地域介護保険事業者連絡協議会	管理者	丸山 敦子	新規	○
	7	発達障がい	飛騨圏域発達障がい支援センター	マネージャー	伊藤 知子	新規	×
	8	環境	(一社)ふるさと体験飛騨高山	理事	渡辺 豊秋	継続	○
	9	伝建・町並	景観町並保存連合会	副会長	日下部 勝	継続	×
事業者	10	医療	高山市医師会	理事	佐守 友実	新規	×
	11	観光	(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会	副会長	井ノ下 雄志	継続	○
	12	建築	(公社)岐阜県建築士会飛騨支部	副支部長	伊藤 麻子	新規	○
	13	交通	濃飛乗合自動車(株)	取締役管理 部長	長野 猛	継続	○
関係行政機関	14	技術開発	岐阜県生活技術研究所	所長	山田 俊郎	新規	○

出席:11人/14人